キャラクター名
Oskar・Ralf・Ehrenberg(オスカー・ラルフ・エーレンベルク)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ モルフェウス	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	UGNブレーメン支部長
オプショナル		年齢	35	性別	男
覚醒	無知	衝動	解放	初期侵食率	38 %
出自	名家の生まれ	経験	秘密	邂逅	63．忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	29
行動値	6
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：	2		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ストライクモービル	運転	4r+2	ー	10		装甲13：戦力移動350m：搭乗中ダイス＋４個
60↓	運転	20r+2		10		侵蝕：9。搭乗中[巨匠+加護+馬]
60↑	運転	21r+2		10		侵蝕：9。搭乗中[巨匠+加護+馬]
80↑	運転	22r+2		10		侵蝕：9。搭乗中[巨匠+加護+馬]

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ストライクモービル		13		-1	戦力移動350m：搭乗中ダイス＋４個

合計装甲：	13	合計回避：	0

所持品

コネ：要人への貸し	
コネ：情報屋	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
秘密兵器(トイボックス)	P	N		
シナリオロイス：譜代稔	P	N		
Veronika=Kommandeu(ヴェラ)	P 庇護	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：モルフェウス	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	ー	
効果：	C値ーLv.(下限７)							
巨匠の記憶	5	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	効果	ー	
効果：	ダイス+Lv.個。[運転：][芸術：][知識：][情報：]へ組み合わせ可							
イオノクラフト	1	1	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ー	
効果：	飛行戦闘移動。移動距離＋[Lv.*2]m							
メカニカルアクション	1	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ー	
効果：	エフェクト以外のマイナーアクション使用。シーンLv.回							
砂の加護	3	3	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	ー	
効果：	ダイス＋[Lv.+1]個。ラウンド１回							
鋼の馬	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	運転：	ー	
効果：	ダイス+Lv.個							
クリスタライズ	3	4	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	100↑	
効果：	装甲無視。攻撃力＋[Lv.*3]シナリオ３回							
壁抜け	1	ー	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	RC	ー	
効果：	物体を透過して移動できる。							
無上厨師	1	ー	ﾒｼﾞｬｰ	至近	効果	RC	ー	
効果：	大気などその場の物質を利用して料理を作り出す。							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

名前：Oskar・Ralf・Ehrenberg(オスカー・ラルフ・エーレンベルク)
エーレンベルク家のラルフの子オスカーという意味、欧州的な中間名を持つドイツ北部出身の一般的ドイツ人。
コードネーム：Stahl Sarg(スタルサーグ)
鋼鉄の棺、常にともにあり力の代名詞である秘密兵器ストライクモービルを揶揄したCNだが、本人としては気に入っている。

これまで：
家系図を遡ると貴族に繋がるなんだかんだと由緒正しい家系の長男として生まれ、代々保存され続けた『秘密兵器』を守護する一族の末裔。
貴族に繋がるとはいえ今では少々裕福な一般家庭といったところで、いくらかの土地や山、建物を引き継ぎそれらから所得を得る地主のような家である。
少々毛色が違うことといえば、先祖代々「いつか力が必要な時が来る」と妙な言葉と共に守り続けられた大きな蜘蛛のような「銅像」くらいか

それが銅像ではないと分かったのはオスカーが5歳の時である。
それなりの教養とそこそこ以上に子煩悩な父は「次はお前がこれも守るんだぞ～＾＾」などと自分の父に言われたように言ったところ
『それ』は目覚めたのであった。
オスカーの中にあったレネゲイドにその秘密兵器は反応し目覚め、オスカーはオーヴァードとして覚醒し、父は驚きと恐怖で我が子を抱きかかえたまま気絶した
。
決して父が臆病だったわけではなく、それまでただの置物だったものが突然唸りを上げて稼働し立ち上がれば誰だってそうなるだろう。

それからオスカーはその蜘蛛と共にUGNに保護され、相応の教育を受けてオーヴァードとして
UGNチルドレンとしての活動を始めた。
覚醒から5年ほどが経過した頃であった。